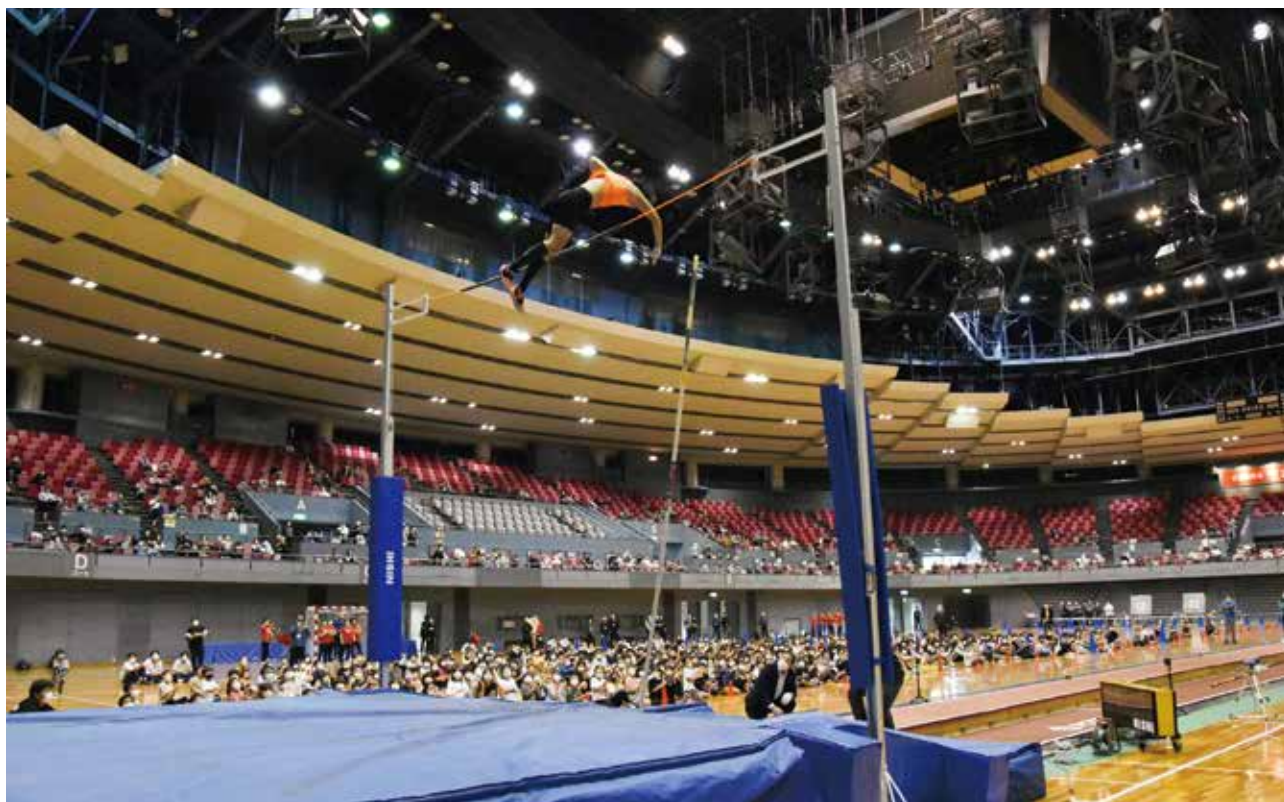


室内“ひろしまストリート陸上プラス”スペシャル 開催!!



毎年5月に広島市中心部の平和大通りで開かれていた「ストリート陸上」。新型コロナウイルスの影響で観戦人数を絞り、室内で子どもたちの参加型に姿を変えて3回目となる「ひろしまストリート陸上プラス」が2022年11月26日、広島グリーンアリーナ(広島県立総合体育館)で開かれました。各競技のオリンピック選手も参加し、スポーツ体験を楽しむ子どもたちの歓声が響きました。

(詳細は2～3ページへ掲載)



令和4年12月3日(土)令和4年度に叙勲・文部科学大臣表彰を受章された本協会ならびに本協会加盟団体関係者の祝賀式を開催するとともに、本協会ならびに本協会加盟団体で永年尽力された功労者や、本年国内外の各種大会で優秀な成績を収めた選手及び第77回国民体育大会で入賞した選手・指導者を表彰する公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞表彰式を広島市内のホテルで併せて開催しました。

(※受賞者名簿は次号(第146号)に掲載します。)



室内

“ひろしまストリート陸上プラス” スペシャル 開催



新緑のオープンエアーの開催も人気でしたが、トップアスリートとふれあえる室内のイベントも盛り上がりしました。コロナ禍で子どもたちの運動不足による体力低下が懸念され、地域の行事やスポーツイベントも中止が相次ぐ中、「豊かで活力ある生活を取り戻すため、体を動かし、スポーツとふれあうことの楽しさを体験する機会を提供しよう」と、広島県スポーツ協会、広島市スポーツ協会、広島陸上競技協会の三者が主催しました。

参加を募集したところ、上限の500家族は埋まり、幼児から小学生までを含む家族連れ約1,000人が訪れました。

開会セレモニーで県スポーツ協会の荻田知英会長は「多くのトップアスリートに参加していただきました。本物のすごさを目を見ていただきスポーツを大好きになってください」と子どもたちにメッセージを送り、ストリート陸上発案者で毎回参加している元陸上男子400m障害選手の為末大さん(広島市佐伯区出身)は「みんな好きなスポーツを探しながら楽しもう! 今日一日、楽しんで」と呼び掛けました。



今回のスポーツ体験は、50m走、ハンドボール、ホッケーと、昨年はなかったアーチェリーが加わり4競技。ゲストは為末さんのほか、陸上女子100m障害世界選手権代表で9月に12秒73の日本記録を樹立した福部真子選手(皆実高出身、日本建設工業)、男子110m障害東京オリンピック代表の高山峻野選手(広島工大高出身、ゼンリン)、アーチェリーは東京オリンピック銅メダリストの河



田悠希選手、シドニー、アテネ両五輪代表の濱野裕二さん、岩田歩選手のエディオン勢、ホッケー女子はコカ・コーラレッドスパークスの錦織えみ選手、中村瑛香選手、松本夏波選手、藤林千子選手、森花音選手、浦田果菜選手、中込紅莉選手、ハンドボールはイズミメイプルレッズの近藤万春選手、石川紗衣選手、榎和奏選手、加納徳伽選手やワクナガレオリックOBの志水孝行さん、イズミOGの高山智恵さんも参加してくれました。

オープニングは、親子で準備体操を兼ねて軽く体を動かす「アクティブチャイルドプログラム」で始まりました。遊び感覚、楽しみながらのゲーム感覚で体を動かし笑顔が広がっていました。

続いて各競技のデモンストレーションです。陸上では棒高跳びの下瀬翔貴、蔵田雅典両選手が観客席ほどの高さにチャレンジ。ハードルでは福部選手と高山選手が疾走しました。ハンドボールではメイプルレッズの選手たちが鮮やかなスカイプレーを披露。ホッケーではレッドスパークスの面々がドリブルやシュートを実演しました。

圧巻だったのはアーチェリーの河田選手。グリーンアリーナの端から端まで、点にしか見えない70m離れた的に向けて放った矢は、見事に9点を射抜きました。



トップアスリートたちの「スゴ技」を目に焼き付けた子どもたちは、ここから各競技の交流体験です。フロアーは競技別に区切られ、子どもたちは4競技を次々に体験していきました。

ホッケーではスティックの握り方からスタート。レッドスパークスで東京五輪代表の錦織えみ選手たちから「ボールはスティックの平らな面に当てるんだよ」などと指導を受け、すぐにドリブルやシュートに挑戦していました。

ハンドボールではディフェンスに入ったメイプルレッズの選手たちをドリブルで抜き去って強烈なシュートを決める児童もいて「すごいシュートだ」と選手たちから声を掛けられ、満足そうな表情を浮かべていました。



アーチェリーでは選手たちのサポートを受けながら、目の前の的に向けて「イチ・ニ・サン」で矢を放つと、しっかりと突き刺さっていました。河田選手は「アーチェリーを知ってほしいと思い参加しましたが、みんな熱心に弓を引いてくれて楽しかった。競技普及につながってくれば」と期待していました。

陸上は「足が速くなる」教室も開かれました。アテネ五輪200m代表の松田亮さん（広島経済大准教授）と同大陸上部員たちが指導役を務めました。床の上に輪を置いてジャンプやステップをすることで、短距離走の走力アップにつなげるトレーニングです。50m走は、ウレタンコートの走路を使用し、QRコードで自動的に記録が計測されるシステム。ゴールのスクリーンには名前とタイムが表示されました。記録に納得がいかなかったのか、2度目の挑戦をする児童もいました。クライマックスは、5、6年生で最速だった男女計4人による、高山選手、福部選手へのチャレンジ。いずれも小学生とは思えない力強い走りを披露してくれました。6年生男子でトップタイムだった岩森遼くん（戸山小）は高山選手に食らいつき、「スタートで離されたけれど、最後まで頑張れた」と笑顔を浮かべて勝負を振り返っていました。



高山選手は「他競技の選手たちとも協力し、子どもたちとふれあえるのはうれしいですね」。福部選手も「ストリート陸上は高校時代に平和公園前で走って以来です。頑張ろうとしている子どもたちがかわいくて。これからもチャンスがあれば参加したいですね」と話していた。

この後、メイプルレッズの加納穂伽、レッドスパークスの錦織えみ両選手が福部選手に50m走で挑みました。ハンドボール×ホッケー×ハードル日本記録保持者のレースは大盛り上

がり。所属チームの選手たちも声援を送る中のレースは僅差で福部選手が貫録勝ちしました。

4時間にわたった体験イベント。エンディングで為末さんは子どもたちに「楽しかった?」と問いかけると「はい」と大きな返事。「みなさん、どんなスポーツでも何でもやってみよう。これからもスポーツを楽しんでいこう」と呼び掛けて締めくくりました。「面白かったねー」と、にこやかに会場を後にする親子連れの姿が続いていました。

広報委員会 副委員長 小笠 喜徳



未来を、
こうしよう!

私たちは、描いているビジョンがあります。
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していけるよう。
これからも時代のニーズに合わせて進化し続けながら、
みなさまとともに歩んでいきます。



屋内電気工事

空調管工事

情報通信工事

配電線工事

送変電地中線工事

リニューアル工事

エネルギー関連工事

環境関連工事



中電工

CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp

第77回 国民体育大会

新型コロナウイルス感染症の影響により国民体育大会本大会は2大会中止となっていたため、3年ぶりの開催となった「いちご一会とちぎ国体」は、令和4年10月1日～11日(会期前9月10日～19日)栃木県で行われた。広島県の総合成績(冬季大会+本大会)は、893.50点で26位となった。

本大会入賞者・チーム

競技名	氏名	所属	種別	種目	順位
陸上競技	安立 雄斗	福岡大学	成年男子	三段跳	1
	安立 雄斗	福岡大学	成年男子	走幅跳	8
	高山 峻野	ゼンリン	成年男子	110mH	1
	福部 真子	日本建設工業	成年女子	100m	8
	池崎 愛里	ダイソー	成年女子	800m	2
	尾濱 太陽	広島県立西条農業高等学校	少年男子A	ハンマー投	5
	迫田 明華	広島県立西条農業高等学校	少年女子B	円盤投	4
	森安 桃風	銀河学院高等学校	少年女子A	3000m	6
	森脇 叶美	広島県立神辺旭高等学校	少年女子A	100mH	8
水泳	江原美月優	広島県立神辺旭高等学校	少年女子A	300m	5
	渡辺 隼斗	自衛隊体育学校	成年男子	100m平泳ぎ	6
	古澤 有馬	福山プラザホテル	成年男子	高飛込	8
	比嘉 もえ	広島市立観音中学校	少年女子	デュエット	5
アーティスティック スイミング	古川 美波	瀬戸内高等学校			
テニス	井上 季子	山陽女学園高等部	少年女子	－	2
	上野 梨咲	山陽女学園高等部			
ホッケー	団体(14名)	コカ・コーラレッドスパークスホッケー部	成年女子	－	2
ボクシング	田村 拓実	(株)大野石油店	成年男子	フライ級	2
	梶原 嵐	東洋大学	成年男子	ライト級	5
	黒田虎之介	T&T WAMサポート(株)	成年男子	ウェルター級	2
バレーボール	団体(11名)	大野石油広島オイラーズ	成年女子	－	7
レスリング	義田 省悟	周南公立大学	成年男子	フリースタイル61kg	5
	河名真偉斗	自衛隊体育学校	成年男子	グレコローマンスタイル60kg	2
	向井 識起	自衛隊体育学校	成年男子	グレコローマンスタイル87kg	1
	坂野 修平	(株)TSSプロダクション	成年男子	グレコローマンスタイル97kg	5
セーリング	濱田 華帆	福山市役所	成年女子	レーザーラジアル級	1
	豊澄 成光	広島なぎさ高等学校	少年男子	レーザーラジアル級	4
ハンドボール	団体(12名)	イズミメイプルレッズ	成年女子	－	2
自転車	天野 裕太	広島城北高等学校	少年男子	スクラッチ	4
	森田 叶夢	崇徳高等学校	少年男子	ポイント・レース	8
ソフトテニス	団体(5名)	NTT西日本ソフトテニス部	成年男子	－	1
	団体(5名)	広島県選抜	成年女子	－	7
	団体(5名)	広島翔洋高等学校	少年女子	－	7
卓球	村上 和羽	瀬戸内スチール(株)	成年男子	－	5
	船本 将志	日野自動車(株)			
	木村 飛翔	駒沢大学			
	成本 綾海	中国電力(株)	成年女子	－	2
	木村 光歩				
	青木 優佳	進徳女子高等学校	少年女子	－	5
	東川 陽菜				
	工藤 真桜				
馬術	藤原 優	広島県立佐伯高等学校	少年男子	標準障害飛越	5
	眞田 翔			二段障害飛越	4
柔道	団体(5名)	広島県選抜	成年男子	－	5
バドミントン	山藤 千彩	広島ガス(株)	成年女子	－	5
	濱北 もも				
	志波 寿奈				
ライフル射撃	森川 清司	広島県警察	成年男子	AP60	1
	中重 勝	広島県警察	成年男子	CFP60	4
	中重 勝	広島県警察	成年男子	CFP30	6
	佃 愛音	広島県警察	成年女子	AP60W	7
ラグビーフットボール	団体(11名)	広島県選抜	成年男子	－	2
カヌー	岡崎 遥海	戸田建設(株)	成年女子	スラローム・カナディアンシングル(25ゲート)	1
				スラローム・カナディアンシングル(15ゲート)	1
アーチェリー	堀口 理沙	(株)エディオン	成年女子	団体戦	5
	樽本 邑里	(株)エディオン			
	森 帆乃花	日本体育大学			
空手道	新井 蓮	近畿大学工学部	成年男子	組手・重量級	5
	小池 蓮華	広島県立安芸府中高等学校	少年女子	形	5
ボウリング	山本 智哉	近畿大学工学部	成年男子	個人戦	7
	門田 裕美	福山市立山手小学校(教)	成年女子	個人戦	6
	石本 美来	JFEスチール(株)西日本製鉄所	成年女子	4人団体	2
	細戸 千聖	ミスズガーデン(株)ミスズボウル			
	小川美由希	妹尾病院			
	門田 裕美	福山市立山手小学校(教)			
	唐下 明徒	東北福祉大学	成年男子	団体戦	6
ゴルフ	笠原 瑛	中部学院大学			
	田中 愛士	大阪学院大学			

第77回 国民体育大会 報告会

第77回国民体育大会の報告会が11月18日(金)にリーガロイヤルホテル広島で行われ、各競技の監督・コーチ、競技団体役員、本部役員等の関係者97名が出席した。

第77回国民体育大会広島県選手団団長 荻田知英(広島県スポーツ協会会長)が、全40競技、総勢565名の選手団の健闘を称えとともに、今回の大変厳しい結果を踏まえ、広島県の輝かしい未来をつくっていくよう一緒に取り組んでいきたいと挨拶を述べた。

続いて、広島県選手団総監督 小寺洋(広島県スポーツ協会専務理事)が、新型コロナウイルスの影響があり、制約の多い中、選手、監督・コーチの皆さんは日々努力を積み重ねておられるが、今回の結果としては男女総合成績26位と前回大会の20位をさらに下回り、得点も151点減少している状況である。かなり厳しい現実をつきつけられたと思っているが、これが今の広島の現状である。国体選手強化費は、広島国体後もほぼ同額の強化費を保持しているが、広島国体以降の8位という目標は達成できていない。チーム広島一丸となって頑張っていこうと総括した。

また、河野裕二(広島県スポーツ協会強化委員長)が、本県が国体で1400点第8位を目指すために、まず競技得点800点、参加得点400点を目標にしていこうと考える。今回の国体での少年種別全国46位という成績は、ジュニアの選手たちに日々十分な練習量や練習環境を与えられていないのが現状であり、子供たちの練習環境を整えるためにどう取り組んでいくかを今まで以上に本気になって考えていかないといけない。中学3年生から高校3年生までの青春を生きている子供たちに十分な成果を出させてあげられなかったという強い悔いと申し訳なさが私の中にある。競技団体の皆様方とヒアリングを繰り返して、まずは来年の鹿児島国体で、競技得点700点以上、総合成績20位以内の返り咲きをするための強化策を皆さんと一緒に考えていきたいと今後の取り組みについて述べた。

競技団体、指導者・監督からの報告

(1) ソフトテニス競技(2連覇までの道のりとこれからの取り組み)

成年男子コーチ 丸中 大明

2019年の茨城国体から2連覇を達成することができた。私たちが取り組んだ点は、3つある。まず1つ目は、各選手のスキルをさらに向上させるだけでなく、弱点を強化するメニューを取り入れた対策練習を集中的に行った。悪いコンディションへの対策も徹底的に行い、おおいに勝利の要因となった。

2つ目は、他の競技の動きをソフトテニスに取り込むことを行った。例えば、前後の動きを速くしたい選手には、フェンシングのフットワーク、ボレーという技術をよりミスなくポイントしたい選手には、ボクシングのパンチのような動きを意識しながら練習メニューに取り込んだ。はじめはきこなかったが徐々に動きに変化がみえてきた。

3つ目は、少年男子との強化練習を行った。打球の速さ、動きの速さは変わるが、少年男子のフレッシュな考え方、フレッシュなプレーをみることで、私たちにとても非常にいい刺激をもらった。少年男子の選手たちが積極的に成年の選手たちにアドバイスを求めに行く姿がかなり見受けられ、将来成年男子で活躍できる選手になってくれたらうれしく思う。

これらの取り組みで、もっとも伸びた点は各選手の自主性である。自分の弱点と向き合い、新しい技術にチャレンジすることで、選手の方から考えを示すようになり、それを個人だけでなく、チーム全体に共有していけるようになり、ボトムアップなチームに仕上がった。これからも連覇記録を目指して、広島県の力になっていけるよう頑張っていきたい。

(2) 卓球競技(これまでの取り組みと今回の成果、今後の取り組みについて)

少年女子監督 中島 健太

栃木国体で結果を残すために、まずは高校主要大会でどれだけ上位に食い込むかということを最大のテーマにした。3月の全国選抜で上位にいくために、中国選抜で優勝しなければ、全国でシード権を獲得できない。中国電力や広島日野自動車の実業団チームの力を借り、また県外遠征やトップコーチ招へい事業を行いながら強化に取り組み、中国選抜優勝、そして全国選抜とインターハイでベスト4に入ることができ、栃木国体を迎えることができた。

栃木国体ではインターハイの結果と組み合わせから決勝戦にいけると自信をもっていたが、残念ながら5位に終わってしまい、悔いの残る結果となった。敗因はいろいろあるが、選手のコンディションをインターハイから国体までうまくもっていくことができなかった監督責任だと思う。

今後の取り組みとしては、もちろん鹿児島国体にむけて目先の勝ちを優先して動かないといけない反面、組織づくりに着手したい。下部組織と高校、そして中国電力、広島日野自動車等の企業と連携をしていきたい。また、指導者育成として、トップコーチ招へい事業で招いている広島県出身で現在関東で活躍している大学生選手を、将来指導者として広島に招きたい。このような形で組織づくりを優先的にかなえ、産学官の連携ができればスポーツ大国広島は絶対できると信じている。これまでのご支援に感謝するとともに、これからも熱いご指導をお願いしたい。

(3) ボクシング競技(今大会の振り返りならびに次年度に向けた取り組み)

少年男子監督 信本 巖

この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか県外遠征ができず、強化ができなかったことが、今回の国体で少年男子の入賞なしという残念な結果の一因だと思う。ただ、基礎的な力の向上を目的とした県内合宿を複数回することで、ここ数年間の力をそこまで落とすことなく強化はできたと思う。今回の少年男子メンバーは、インターハイや全国選抜で好成績を残した選手を筆頭に構成したメンバーであり、3名は3位以上を狙えていた。しかし、言い訳になるが、3名とも今回の国体の優勝者と1回戦で対戦というくじ運で、互角の戦いをみせてくれたが敗退した。来年度以降は、誰と戦っても勝てる選手に育成していきたい。

一方、成年は、関東の強豪大学を卒業したあと、広島県の就職支援事業で社会人となった選手は2名とも準優勝となった。仕事の合間をぬっての練習となり、あまり時間がとれない中で、一回一回の練習をととても大切に、さらに力をのばしている。ただ、少年選手に社会人選手の経験を伝える場がなかなか取れなかったことも今回の少年選手の低迷の原因だと思うので、次年度に向けて、成年選手の経験を還元するような場をつくっていきたい。

また、今のボクシングを実際に経験している若手の指導者を育成していく必要がある。今回活躍した成年選手を筆頭に、広島に帰ってきて、選手やコーチとしてその経験を選手へ伝えることができるような場をボクシング連盟一同で考えて、広島県に貢献していきたい。

(4) 水泳競技(今回の成績を踏まえ今後に向けた取り組みの方向性)

(一財)広島県水泳連盟 競技力向上総括 永田 和久

栃木国体において競泳は、成年男子の100m平泳ぎ6位による3得点に留まり、不甲斐ない結果となった。

競泳少年種別の都道府県別の評価の指標として全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技会への参加者数があり、この上位県はほぼ国体の成績とシンクロしている。広島は例年20~25位の参加者数であったが、本年は43位と激減してしまった。少年選手が減少していることは、やがて成年選手も減少することとなる。

従来、水泳連盟の強化は、国体対象選手への選抜合宿、強化練習を主体に行ってきた。もちろんこの国体強化事業をしっかりと継続させるとともに、国体対象年齢以下の中学生、小学生選手の強化が重要になることから、次の事業を行っている。1つ目として、ジュニアオリンピック参加標準記録突破を目標とした、小学生対象の合同練習会の実施。2つ目として、小学生から中学1,2年生を対象とした、日本水泳連盟ナショナル標準記録突破を意識づける、広島市総合屋内プール(50mの競泳プール)での練習会の実施。3つ目として、標高と屋内50mプールを活用して、選手のパフォーマンスの底上げを図る長野県での高地トレーニングの実施。4つ目として、トップコーチ招へい事業で練習会、講習会を実施。令和2,3年度は、ほとんどの事業が中止となったが、本年度からこれらを再開している。若手コーチと連携を取り、新しい知恵を入れながら事業を活性化していくことが必要である。来年度からはよりレベルアップを図り、国体で活躍できる選手を育成していきたい。

スーパージュニア選手育成プログラム2022 第3回体験プログラム

11月19日(土)、広島県立総合体育館において、第3回体験プログラムを開催しました。

第3回体験プログラムは、午前が「バドミントン」、午後は「からだのバランストレーニング」です。

午前のバドミントンは、広島ガス株式会社バドミントン部OGの平井亜紀さん、広島県バドミントン協会の皆さんに指導をしていただきました。

まずは、準備体操からはじまりウォーミングアップを行いました。お手本をみながら、さまざまなステップの動作を練習し、からだを温めていきます。



からだが温まったところで、さっそくラケットをもって持ち方の指導、振り方を教わっていきます。先生のお手本をみながら、基本となる素振りを繰り返し行いました。

そして、実際にシャトルを打っていきます。最初は、なかなかうまく打ち返すことができなかった選手もだんだんと慣れてきて打ち返すことができるようになってきました。

また、シャトルをラケットですくう練習や、シャトルを直上へうちあげて打つ練習等もおこないました。チームごとに何回繰り返し先生とラリーを続けることができるか、チームのみんなで声を出しながらおこないました。うまく打てなくて試行錯誤する様子もみられ、先生のお手本を参考



に一生懸命頑張っていました。今回は、試合をするまでには至りませんでしたが、この体験をきっかけに、バドミントンの魅力を感じ、新しいスポーツにも挑戦してくれたら嬉しいです。

午後の「からだのバランストレーニング」は、一般社団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーが指導してくださいました。

最初に、講義形式で保護者の皆様と一緒に運動スキルとスポーツスキルについて学びました。その中で、今小学生にとって必要なのは、運動スキルであることを学び、どんなスポーツをするにも重要になる、姿勢を整えるトレーニング・体幹の固定力を高めるトレーニングなど、様々なバランストレーニングを分かりやすい説明を受けながら体験しました。

簡単そうで難しい回転・連続ジャンプ、腹這い姿勢で頭・足を浮かしての横転などで体の使い方を学んでいきます。最初は緊張気味だった選手たちも、グループ対抗の少し頭を使うゲームではすっかり打ち解けて沢山の笑顔を見ることができ、しっば取りや様々な動きでしっかりとからだをつかうことができました。



家庭でできるトレーニングもあったので、それぞれが自分にあった身体づくりを続けてほしいと思います。

また、今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会副委員長の石井良昌先生による「ジュニア期のスポーツ傷害」の講話でした。先生のこれまでの医療活動のご経験を踏まえ、こどもの骨や関節等の特徴からジュニア期に起こりやすい障害の具体的な症例やオーバートレーニングの危険性についてお話いただきました。



また、スポーツ障害の予防や対策についても学び参加した保護者も熱心に聞いていました。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方やT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方など、多くの皆さんにご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。



さあ、ともに 未来へ!



ラグビー部
陸上競技部
女子卓球部

中国電力はシンボルスports部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社

<https://www.energia.co.jp/>

第47回 広島県民スポーツ大会開催

前回、前々回と新型コロナウイルス感染症の影響により、やむを得ず開催を中止した競技があったが、3年ぶりに予定していた全11競技を開催し、無事終了することができた。

大会では各競技役員や参加者の協力により、体調確認や検温、手指の消毒や競技中以外でのマスク着用等感染防止対策を徹底した。

悪天候等により中止となった競技もなく、一般の部・スポーツ少年団の部、計4,637人が参加し熱戦を展開した。

また総合型地域スポーツクラブ交流会を11月5日(土)に北広島町大暮養魚場で行った。参加者50名はカヤック体験や釣り大会等を行い、交流を深めた。
(詳細はHPへ掲載)

各競技の1位は次のとおり。

競技【部】	種別	種目	第一位
陸上	スポーツ少年団の部	男子	100m 岩森 遼 (chaskiジュニア)
			80mH 増原 玄大 (chaskiジュニア)
			4×100mR 広島ジュニアオリンピッククラブA
		女子	走幅跳 筑後 蒼人 (竹尋アスリートクラブ)
			100m 辰本 心徠 (竹尋アスリートクラブ)
			80mH 江原杏月芭 (竹尋アスリートクラブ)
		中学	4×100mR 竹尋アスリートクラブA
			走幅跳 河村 陽香 (東広島TFC)
			200m 岩崎 優士 (府中空城)
			4×100mR 御野陸上スポーツ少年団A
	一般の部	男子	走高跳 天川 佑介 (吉和AC)
			砲丸投 井上 莉生 (三原陸上)
			200m 山森 彩花 (セトナミスポーツクラブ)
		女子	4×100mR 東広島TFC-A
			走高跳 木谷 優月 (東広島TFC)
			砲丸投 本田小百合 (庄原市)
		一般の部	3000m 伊藤 潤 (三原市体協)
			4×100mR 府中空城
			砲丸投 前田 秀尚 (吉和AC)
柔道	スポーツ少年団の部	団体戦	小学生(3・4年) 有朋柔道塾
			小学生(5・6年) 興仁道場
			中学生 崇徳学園柔道
		個人戦	小学3年生 鑄鍋 臣 (八次)
			小学4年生 中村 豪希 (美心塾)
			小学5年生 吉本 海人 (高屋)
			小学6年生 高原 悠凜 (有朋)
			中学1年生 窪 将真 (崇徳学園)
			中学2年生 米澤 直良 (崇徳学園)
			中学3年生 栗栖 孝明 (崇徳学園)
		団体戦	小学生(4~6年) 八次柔道場
			中学生 高陽落合柔道教室
			小学3年生 中原 亜緒 (熊野)
	一般の部	男子	小学4年生 角田 彩 (有朋)
			小学5年生 宮田 真央 (有朋)
			小学6年生 鑄鍋 まき (八次)
			中学1年生 坂本 智春 (宮内)
			中学2年生 佐藤 綺咲 (高陽落合)
			中学3年生 堀田 桃花 (五月が丘)
		女子	小学3年生 加藤 朋己 (西風)
			小学4年生 佐々木和佳奈 (西風)
			小学5・6年生 関田啓士朗 (毘沙門台)
剣道	スポーツ少年団の部	男子	小学5・6年生 増田 海雨 (もみじ)
			中学生男子 原田 恵社 (もみじ)
			中学生女子 地頭 優羽 (亀山剣道クラブ)
		一般の部	男子 呉市A
			女子 広島市西区
	一般の部	男子	A 矢野ソフトボール
			B 沼田西ファイヤーズ
			C 阿賀Gビクトリー
			D 横路若虎
			E 呉荘山田龍王クラブ

競技【部】	種別	種目	第一位
ソフトボール	一般の部	福山会場	A 戸坂体協 (東区)
			B 御衣尾ソフトボールクラブ (府中町)
			C Vertex (庄原市)
			D M・C・NUMBER (呉市)
			E 山本体協ソフトボール部 (安佐南区)
			F 己斐上体協ソフトボール部 (西区)
	一般の部	府中会場	男子 BANDIT (広島市)
			女子 Proud (広島市)
			男子 坪生WIN'S (福山市)
			女子 はつかいちクラブ (廿日市市)
バスケットボール	一般の部	少年団の部	男子 柴崎雄斗・狭間新太 (因島JST)
			女子 金本楓・沖永夢果 (因島JST)
			男子 菅優樹・大神琉真 (音戸)
			女子 空河内心暖・平川友楓希 (祇園東)
	一般の部	中学生	男子 呉市
			女子 因島BCJ
			男子 東野SBC (A)
			女子 広島市安佐南区
			男子 小学1・2年生 横山 彦輝 (ヒロタク)
			小学3・4年生 グエンカックウェット (広島フェニックス)
バドミントン	一般の部	男子	小学5・6年生 渡邊凜太郎 (ヒロタク)
			中学1年生 堂野 陽太 (ヨシダTTS)
			中学2年生 江崎 空 (ティーエスクラブ)
			小学1・2年生 西内 美咲 (可部町卓球)
	一般の部	女子	小学3・4年生 山本 祐葉 (可部町卓球)
			小学5・6年生 坂田 夏美 (ヒロタク)
			中学1年生 岩田千莉南 (広島フェニックス)
			中学2年生 廣中 莉乃 (ヒロタク)
			一般の部 広島市佐伯区
			小学生1・2年生男女 于 嘉俊 (清風拳)
卓球	一般の部	男子	小学生3・4年生男子 長行 我生 (和道会広島東)
			小学生5・6年生男子 鈴木 琉生 (和道流)
			中学生男子 福原 要汰 (拳志館龍王)
			高校生男子 寺西 優太 (拳志館下黒瀬)
	一般の部	女子	小学生3・4年生女子 新田 愛友 (牛田新町)
			小学生5・6年生女子 佐伯葉咲愛 (和道会広島東)
			中学生女子 新井 梓 (和道流)
			高校生女子 寺岡 杏 (戸坂)
			団体戦 府中緑 (府中町)
			小学生9級以下 須田 智喜 (坂町)
空手道	一般の部	男子	小学生7・8級 藤中 悠斗 (海田町)
			小学生5・6級 河本 一輝 (五日市)
			小学生3・4級 須田 晴喜 (坂町)
			小学生2級以上 原 唯華 (拳武五日市)
	一般の部	女子	中学生男子 栗原 怜之 (拳志館安芸)
			中学生女子 尾川 悠 (拳志館キッズ)
			高校生男子 高橋 拳大 (拳志館八本松)
			高校生女子 小池 蓮華 (東浄)
			団体戦 安芸府中 (府中町)
			男子 安芸太田町
ゴルフ	一般の部	男子	女子 尾道市



広島スポーツ余話 ④

田園育ちのボストン覇者、「アトムボーイ」田中茂樹

戦後復興の槌音が響く1951(昭和26)年春、伝統の米ボストン・マラソンを無名の青年ランナー、田中茂樹が制した。庄原市出身で日大へ入学したばかり。田園育ちのヒーローはしかし、地元で栃木国体開催中の10月4日、宇都宮市の自宅で91歳の生涯を終えた。20歳でつかんだ「ボストンの栄光」は、数々のエピソードとともに語り継がれている。その一端を紹介する。

広島市から約100kmの県北、比婆郡敷信村高門(現庄原市高信町)が田中の古里だ。4人兄弟の末っ子は負けずらいで粘り強い性格だった。4kmの山道を走って通学した。板橋国民学校高等科2年の8月6日朝、青白い閃光が走り、やがて近くの寺に被爆者の遺体が運ばれてきたのを覚えている。



田中茂樹のボストン・マラソン制覇を報じる
1951年4月21日付中国新聞

旧制庄原実業に入学した田中はたちどころに長距離走に適性を発揮した。地元の中国駅伝は3回連続で区間賞、優勝も2度。比婆西高3年の愛知国体20kmで優勝、暮れの初マラソンでは10位に入った。中国駅伝の1週間後、山口のボストン派遣選考マラソンで優勝を飾った。母子家庭であり、渡米は乗り気ではなかった。だが、高校の校長や地元の支援が後押しした。

1951年4月19日、第55回ボストン・マラソンには4人の日本選手を含む153人がスタートした。日本のエース格、小柳瞬治がリードしたが、心臓破りの丘を登り終えた35km、田中がトップに躍り出る。そのまま2位に3分半の大差をつける2時間27分45秒で逃げ切った。駅伝育ちの学生ランナーが日本選手で初めて、伝統レースの頂点に立った。

田中の優勝を米紙は「アトム(原爆)ボーイ」の見出しで報じた。被爆地広島出身とあって、記者たちの質問が集中した。大会前、米国防総省は被爆状況を問いただした。「その時、お前はどこにいたのか」と。生前、田中は筆者に「子供心に(原爆を投下した)アメリカは許せんと思っていた。同じ国に(マラソンでも)二度も負ける訳にゃあいかん」と語った。だが、その後で「初めて見たアメリカは見るのとじゃえらい違い。こんな国と戦争しとったのかと驚きました」と言葉をつないだ。分厚いステーキ肉に面くらい、豊かさを思い知ったという。

帰国した田中は地元の大歓声に包まれた。広島駅に祝福ののぼりが立ち、木炭トラックで故郷まで凱旋パレードし、盛大な歓迎会に臨んだ。母コメイさんへのアメリカ土産は、真っ白な角砂糖だった。

ボストンの覇者はその後日大で箱根駅伝に出場し、2年で区間賞を獲得した。だが、五輪出場は果たせなかった。52年ヘルシンキ大会は選考会で惨敗、56年メルボルン大会も及ばなかった。膝の故障が競技生活を縮めた。現役引退後は栃木県に居を構え、都内のデパートや保険会社に勤務する傍ら、日本陸連理事や全国マラソン連盟会長など後輩の支援に意を注いだ。

ボストン・マラソンにまつわる田中の逸話には事欠かない。覇者の栄誉として授与される金メダルを自宅で大事に保管していた。ところが1998年5月、就寝中に盗まれてしまった。盗難を知ったマラソン主催者のボストン体協は直ちに新たな金メダルを贈って来たのだ。ほどなくしてブラジル籍の青年の犯行が分かり、メダルが再び手元に戻って来た。「二つあってもしょうがない。二度と盗まれないように」と同年8月、東京・国立競技場内の秩父宮スポーツ博物館(当時)に寄贈したのである。

ボストンを制して50年後、田中は同体協から招待され大会前日4kmレースに参加した。3,000人もものランナーとともに汗を流したが、ナンバーカードは当時の「17」番を持参し、足元は半世紀前に履いていた「マラソン足袋」だった。布製で裏がゴム張りの足袋は現地の関心呼び「私の今日があるのはボストンのお陰」と、田中は気前よく体協にプレゼントしたのだった。1912年ストックホルム五輪マラソン初参加の金栗四三が履いていた「金栗足袋」モデル。田中はマラソン足袋を履いた最後のランナーでもあった。終生、古里庄原をこよなく愛した田中に2009年、市民栄誉賞が贈られた。



帰国した田中を迎えて広島駅頭での歓迎式
〔広島スポーツ100年〕

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)




未来を、ひろげる。

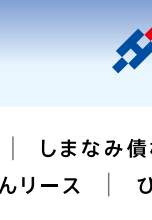
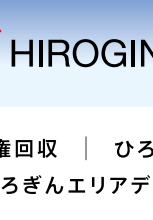
私たちは、お客さまに寄り添い、声に耳を傾け、
真に信頼される〈地域総合サービスグループ〉として
お客さまとともに、この地域の未来をひろげます。

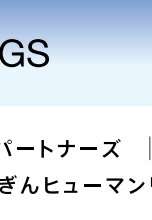


HIROGIN HOLDINGS







広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんITソリューションズ
ひろぎんリース | ひろぎんエリアデザイン | ひろぎんヒューマンリソース

(2022年4月1日現在) 2207